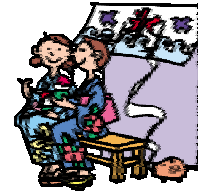


山行報告



大船山



日 時：4月17日(日)

参加者：CL 松下 SL 砂川 大瀬 1GL 竹内 尾越 塩津 巻藁 2GL 澤田(律) 岡本
澤田(卓) 開 渡邊(健) 3GL 西村 大谷 北村 多木
4GL 山本 井上 河合 関山 森川 5GL 渡邊(俊)
足立(美) 狩集 須増 6GL 和田 荒尾 金島 嶋澤

行動記録：(2G)

宝殿駅 8:18 発—高平ふるさと交流センター 9:37 着(9:46 発)～観福寺 9:55
ストレッチの後出発 1G 10:10 2G 10:15～492.8m 三角点(上カイホ) 11:28～行者
山(559m) 11:40～地点 12:15 山座同定実習 12:18 昼食(12:25～12:58)
地点 出発 12:58～ 489m 地点 14:03～十倉分岐 14:24～大船山 15:00(15:10 発)
～十倉分岐 15:28(15:33 発)～池 15:45(16:07 発)～バスに乗車 16:20—高平
ふるさと交流センター 16:25 ストレッチの後出発 16:45—宝殿駅 18:12 着

読図山行大船山

「登山に地図とコンパスは必携」という事で持って行くが、日本の山は道標が整備され、テープによる道しるべ等があり、ルートがはっきりしているので、あまりコンパスを使用したことがない(これではいけない)。

地図を読むとは、現在地を地図上で正確に指し示すこと。これを実践するべく、初めての試みとして読図山行が計画された。その山は三田市にある大船山(読図は川原から十倉峠の間)である。

山行当日は、心配していた天気も快晴となり絶好の登山日和。29名が参加。3名の方はサポーして下さった。ストレッチ後、グループ仲間にコンパスの使い方を説明。私達1グループは川原公民館グラウンドを先頭で出発。残り5つのグループは5分間隔で出発。

登山口から尾根への取り付けまでは多くの木々が生え、見通しが悪い。あたり一面落

竹内



葉が積もりトレースも薄く歩きづらい。

尾根からは先頭を交代して歩く。各所では、コンパスで進行方向を確認。見晴らしの良い場所で山座同定等を行う。その後も、尾根、谷、ピークを確認して歩きルートを外すことなく十倉峠に着く。(11日前に同じコースを歩き山の状態、周囲の景色を把握、記憶

していたので難無く歩けた。)

地図が読めるようになるにはどれだけ頻繁に地図に目を通すかにかかっている。これを機会に今まで以上に地図に目を通したい。地図が読めれば山登りが楽しく面白くなると思う。

この峠からは一般ルートとなる。さすがに路幅も広くはっきりとしている。これまでの路とは雲泥の差だ。

頂上直下の急坂を登りきり大船山山頂に着く。360度の展望が開け、北摂、丹波の山並み、大阪湾等が見え、素晴らしい眺めだ。又、ここには説明板があり次のように書かれていた。

万葉歌人柿本人麿は西国より海路、都に帰る途中「あまれるひなの長路に 漕ぎくれば

明石の門より 大和島見ゆ」と歌い明石海峡からこの山を遠望し「大和へ帰ったぞ」と喜こんだ、とある。

天に突き刺すように尖った山容で目立つ山だったのか。

尖った山といえば昼ヶ岳、鳥飼山、車窓から

見えた羽束山等北摂には尖った山が多い。ここでは6グループと合流、揃って下山し、十倉のため池で後続グループを待つ。しばらくして、残りのグループが順次到着し、全員が揃う。無事で何より、読図山行お疲れさまでした。



六甲山系

ロックガーデン・地獄谷から風吹き岩

日 時：4月29日(金・祝)

参加者：L 砂川 荒尾 岡本 尾越 塩津 高橋 本多 巻藁 和田

行動記録：芦屋川 9:00～高座の滝～ストレッチ・ボッカ準備 9:30(9:52 発)地獄谷～万物相・

ピラーロック 11:16(11:33 発)～雨ヶ峠・昼食 12:35(13:03 発)～住吉道～五助の

堰堤・小休止 14:12(14:30 発)～阪急住吉駅解散 15:21

六甲地獄谷ボッカトレ

4月9日に行われた六甲最高峰までのボッカトレに続き、4月2回目のボッカトレ。重荷を背負う事に慣れるトレーニング山行です。午前9時に阪急芦屋川駅前で集合、地獄谷入り口付近でストレッチ・重量チェックをし、スタートです！私にとっては初めての地獄谷。小さな滝が連続し、大小の岩をよじ登ります。歩き始めから、いえ！参加希望をした時から「湿った岩場は苦手だな・・・」という不安感がありました。その為か、スタート直後から緊張、喉はカラカラ！！(おっか

まきみ

な～い！)しかし、会長・皆さんからのアドバイスのお陰と、常に頭の中は「三点確保！」そして、前の人が登っていくのをしっかり見ながら慎重に足場を選びます。岩を過ぎる度に「やった！！」と感動(大げさ！？)気付けば歩き始め時の不安感は無くなり、無事に地獄谷を過ぎる事が出来ました。次に目指すはピラーロック。地獄谷での緊張感から開放されたのか、ようやく背負ってるザック(15kg)の重たさを感じました。万物相辺りで小休止。この辺りは、風化の進んだ岩々が

幻想的な雰囲気を作り出しています。天候にも恵まれ、万物相と南側に広がる町並みを眺める景観は予想以上に素晴らしく、至福の時間を過ごす事が出来ました。その後、雨ヶ峠で昼食。下山は住吉道を経て阪急御影駅を终点とするコースです。住吉川沿いにある住吉道。急な下りはなく、明るいハイキング道となっています。また、すれ違う人々も少なく、静かで爽やかな山歩きを楽しむ事が出来ました。途中の小休止では、Sさん・Oさんが用意して下さったコーヒーをいただきました。疲れた体に染みわたる一杯に気分もリフレッシュ。ありがとうございました！！マイ

ナスイオンをたっぷり浴びながら、皆さんとの会話も弾み穏やかな時間を過ごす事が出来ました。その後、午後3時過ぎ阪急御影駅に到着。4月9日と今回のボッカトレ、少しは重荷を背負う事にも慣れ、岩場・ハイキング道など盛り沢山のコースを体験する事が出来ました。ちょっぴりだけ縦走山行の雰囲気を味わえたかな！？と嬉しい気持ちでいっぱいです。この日、GW 初日にして「今日1日で充実したGWを過ごすことが出来た～！といっても過言ではない！！」と感じた山行になりました。会長を始め、ご一緒に下さったに皆さん、ありがとうございました。

一山

日 時：4月30日(土)

参加者：L 上田 SL 山本 阿蘇 狩集 切貫 澤田(卓) 澤田(律) 多木 竹内
中嶋 和田

行動記録：別所 PA8:00—道の駅播磨いちのみや 8:55(9:00 発)—二ツ橋 9:40 (10:20 発)～広場 11:10(11:20 発)～一山頂上 11:55(12:30 発)～広場 12:50(13:00 発)～二ツ橋 13:35(13:45 発)～まほろばの湯 14:10(15:15 発)～別所 PA16:30

穴栗の山 一山

4月30日、日帰り登山、天候は、曇り。天気がもてば良いなあと思い出発し姫路バイパスからR29→道の駅播磨いちのみや集合し目的地を目指す。道の駅では、地元で取れた山菜が多く売られており「春の季節」を感じる。私は、筍が大好きである。わかめと煮て食べる。若いときは、見ても興味なく食べようと思う事は、無かったが年を取ると食べ物の好みも変わり美味しいと思う。さて、阿舎利山へ向けて出かける。やがて、山の中へ入り細い山道を走っていると名水の出ている所があり暫く行くと、山の神が現れる。山の神は、名水の近くの小屋で野草を育てながらこの辺りの管理している人らしい。冬は、雪も積り寂しい所である。山道の舗装もココ

まで、我々がウロウロしているとよって来て色々情報をくれた。おじさん曰く、この先は、車で行く事と、ここからのコースで阿舎利山へ登るのは、倒木が多く困難で有るとのアドバイスをもらう。地元の情報は、有り難い。

多木



さあ一山へスタート。穴栗50山のうちの山である。「ひとつやま」標高1064m。ちょうど一山の登り口なので手前に駐車し登山開始。上り口からは、手前に山があり直接一山を見渡す事は、出来ない。案内表示版もあり整備されていて登り易い。暫く行くと山道に出てくる。少し広場があり、休憩。水を飲みながら、周りの風景を堪能しながら体を休める。皆さんとの会話も楽しいものである。休憩も終わりスタート。高さ15メートルぐらいの小山があった。急であり前に壊れた梯子が2本ぶら下がっている。近くまで行くと横にロープがあり一人ずつ登る。少し急な所も

有るが登り易い。

暫く登ると頂上である。辺りは、一面すずきに覆われ木が無く360度見晴らしが良い。枯れた大木が数本立っている。遠くに氷ノ山が雪を被っているのが見える。360度遠くまで見晴らしがきき景色最高である。ここで昼食を取り会話ははずむ。記念写真も「はいチーズ」沢山とる。来た道を戻り下山し、名水の所で試飲する。「美味しい」につきる。まほろばの湯へつかり、垢と疲れを流す。雨に降られず楽しい登山でした。皆さんお疲れさまでした。

稲村ヶ岳

日 時：5月3日（火・祝）～4日（水・祝）

参加者：L 渡邊（俊）SLa 澤田（卓）荒尾 足立（美）大谷 嶋澤 砂川（美）舩賀

L 待場 SLb 澤田（律）足立（光）井上 佐々木 清水 長谷川（孝） 森永

行動記録：5月3日

山電高砂駅 7:00—JR 宝殿駅 7:15—京橋 SA 8:05—道の駅大淀センター 10:10—

洞川温泉 11:25～母公堂（昼食）12:00（12:30 発）～合流点 12:43～衣服調整 12:57

～法力峠 13:34（13:40 発）～廃トイレ跡 13:55～休憩 14:24（14:30 発）～地藏石仏

14:50～山上辻 15:03（稲村小屋泊）

5月4日

稲村小屋 6:56～稲村ヶ岳山頂 7:35（7:50 発）～大日山山頂 8:08（8:19 発）～

山上辻 8:55～蓮華峠 9:30（折り返し）～山上辻 9:50（10:10 発）～法力峠 11:10（11:26

母公堂分枝 12:03—洞川温泉入浴 12:50（14:00 発）～昼食 14:00（15:17 発）

道の駅大淀センター 16:20（16:30 発）—京橋 SA 18:30（18:40 発）—JR 宝殿駅 19:25

—山電高砂駅

楽しかった稲村ヶ岳



去年に大峰山脈を行者還トンネルに車を止め

嶋澤

て弥山～八経ヶ岳へと日帰りで登った思い出のある山脈である。今年は一泊で稲村ヶ岳に挑戦です。

7:15分にJR宝殿駅前を出発し、登山口がある洞川に到着後、登山口（母公堂）へと向かった。

登山口前の五代松鍾乳洞の所では、多くの

人々がころころ水（名水百選）をポリ缶で汲みに遠くから来ていた。やはり山の水は、料理にコーヒーに良いのだろう。まずは、少し早い昼食とした。どこの山へ行っても、食事は最高に美味い。どうして、いつもこんなに美味しいのか不思議である。私が山にハマった理由の一つが頂上で食べる食事である。最初に登った頂上で食べたカップラーメンとおにぎりの美味かったこと。それ以降、通常の山行ではカップラーメンとおにぎり決めていきます。

12:30分に登山を開始し、13:00に衣服調整。やはり登り始めると10分もすれば汗ばんでくる。この日は黄砂のため景色に霞がかかっているようで、少し残念であった。

1時間程で法力峠に到着し一休み。再び登り始めたが、さすが山遊会のメンバーである。後の人がつまづかないよう折れた枝を見つけたら除けているメンバーがいた。感謝した！

再び1時間程登っていると急に山小屋（稲村ヶ岳山荘）が目に入ってきた。山上辻に到着だ。



まず、衣服を替え明日の準備。

小屋の机の上で、宴会の準備をしていると横の机では天気図の作成の勉強会が始まった。

さすが山遊会である。もちろん私は宴会の方に座って、美味しいビール・梅酒・ウィスキーを頂いた。その時に、今日登りの時から足の出し方等の指導を受けていた舩賀さん（本日始めてお会いした）と意気投合した。本当にご指導ありがとうございました。

20:00には消灯なので布団に入ったが、その布団の良かったこと。私も以前に山小屋で寝た事がありますが、今回のように気持ちの良い布団・毛布は初めてで、ぐっすりと眠れました。夜中、雨と風の音が気になるくらいすごかった。おかげで、二日目は黄砂も無く景色が美しく、師匠（舩賀さん）の後で踏み跡を見ながら登山をし、勉強させてもらいました。師匠も残雪の場所は、後ろの人のために自分の足形をつけ、より良い足場を作っていました。「やはり山遊会の人には出来た人が多いな！」と、これまた感心。稲村ヶ岳山頂では、皆が昨日の朝に会った人とは別人のように打ち解けていて、やはり山は最高だと思いました。

これからも、できるだけ参加しますのでご指導よろしくお願いします。

弥山～八経ヶ岳

日 時：5月3日（火・祝）～5日（木・祝）

参加者：L 砂川 SL 松下 尾越 塩津 和田

行動記録：5月3日（火） 加古川駅 8:00—行者環トンネル西口 12:10（昼食、荷造り）（13:10 発）～尾根分岐 14:20～弥山 16:40

5月4日（水） 弥山 7:15～八経ヶ岳 7:45～舟ノ峠 9:27（休憩）（9:40 発）楊子ヶ宿跡 10:40～釈迦ヶ岳 14:50（休憩）（15:00 発）～大古ノ辻 16:20（休憩）（16:30 発）～前鬼・小仲坊 19:00

5月5日（木） 前鬼 8:20～垢離取場 9:25～三重の滝 10:00（10:15 発）～前鬼 11:45（昼食）（13:20 発）—きなりの湯 14:30（入湯）（15:30 発）—加古川駅 20:00

新星アルプの初めの1歩かな

“今年の春山は大峰”というLの言葉に、アルプス方面の春山を夢見ていた私は、薄桃色に霞む春の大峰の美しさも捨てがたく、“今年の春山は大峰”へと気持ちを切り替えました。ところがパーティー編成が固まってきても、事前トレーニングへ参加できずに、他のメンバーには申し訳なかったけれど実績で参加させていただいた。立ち上げて日が浅い高御位アルプ故、アルプのメンバーを中心にテント泊で縦走するとあって、事前のボックატレは必須でした。

* 5月3日 行者還トンネル西口～弥山小屋*

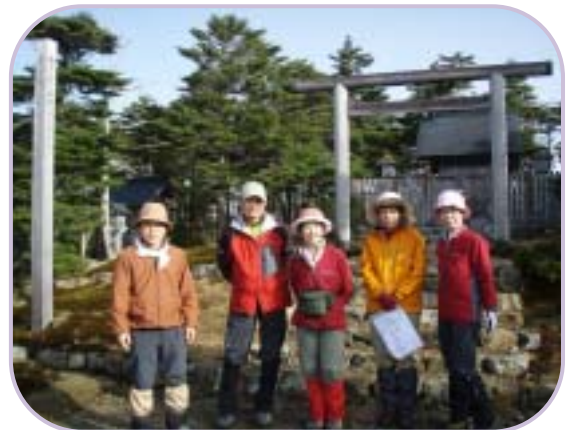
ボックატレの目安は15kgということでしたが、実際は登る前にLによって計量され、皆17kg相当の荷物を担いで登りました。支尾根の急登からシャクナゲの群生を抜けると、稜線の奥駈道へ合流。聖宝宿跡で一息入れる頃、雨がポツポツ落ちてきました。ここでは、触れると雨が降ると伝わる大峰中興の祖・聖宝理源大師の坐像があり、当に！という感じでした。ここから弥山への最後の登りにかかります。以前は胸突き八丁と呼ばれた難所だったそうですが、現在は木道が整備されています。北面は残雪が結構ありますが、固まっていて、アイゼンを装着しなくても歩けました。16時40分弥山小屋到着、コースタイムの1、5倍要しました。この時にヤレヤレと一息入れるのでなく、テン場の確保へ行動を移す事をLから教えていただいた（反省）。テントを張る適所を捜すのはテント泊には大切な事です。テント設営後、食事（ドライカレー&チキン唐揚げ）就寝（風の音で眠れません）。

* 5月4日 弥山～八経ヶ岳～釈迦ヶ岳～前鬼*

7時15分、弥山小屋出発。コースタイム8時間、長い縦走の1日の始まり……。小屋を出て南へ奥駈道を行くとオオヤマレンゲの保護柵があります。その先に近畿最高峰の八経ヶ岳がそびえています。ここから明星ヶ

松下

岳への道で足場の悪い処が2ヶ所あります。慎重に足場を確保しながらロープを掴んで下りました。この後、チェストハーネスを装着しましたが、緩やかなアップダウンの繰り返しで幸いロープを出したり、確保の必要な箇所はありませんでした。舟ノ峠辺りからバイケイソウの群落が広がっていました。なだらかな稜線歩きから七面山の東峰へ目を移すと、関西最大という400mの壮大な岩壁が聳え立ち圧巻でした。ブナ林の中を仏生ヶ岳、孔雀岳と進み、このころから段々と疲れ



が出てきました。歩行ペースも鈍り、釈迦ヶ岳の登りは短いけれど急なので、Lの指示で荷物の分散がありました。釈迦ヶ岳の山頂には、大正13年に強力が運んだ高さ3、6mの釈迦像が立っています。ここから、弥山、八経、明星と・・・今日歩いてきた峰々が一望に見渡せて“感激！”の一言でした。後は下って前鬼を目指すのみでしたが、疲労の色も濃く、太古の辻から前鬼へのコースでテープを見落として、下った尾根を少し登り返すアクシデントがありました。それにあと少しと気の緩みからか、太古の辻から前鬼へのコンパスを合わせていませんでした（反省）。薄暮の中、前鬼着19時で12時間歩行となり、この日もコースタイムの1、5倍を要しました。そんな中でも、元気なLのかけ声で念入りストレッチでした。この後、テント設営、食事（クリームスープ&ヒレカツ）は歩き通した事も含めてなかなかの美味でした。今宵はさすがにバタン・キュー。

* 5月5日 前鬼行場巡り *

長い間の念願ということで、行場を訪ねることになりました。深仙溪谷の下方、垢離取場辺りは山紫水明という表現がぴったりで、美しい溪谷の脇にヒカゲツツジがひっそりと咲いていました。落ちて流れて前鬼川に注ぐ三重の滝ではどんな行がなされているのでしょうか・・・？想像のまま、勇壮に水しぶきを上げる滝を後にしました。帰路、溪流付近へニホンカモシカが現れました。人懐こいのか、しばらくこちらを見ていました。

今回の計画はテントを含めた縦走で初めてのメンバーが多いのも事実ですが、任務分担からしにおぶさりすぎた事は反省材料で、次回への課題としたいと思います。車でのアプローチについては、狭い林道での運転技術が要るので難しい課題ではありますが、その他テント縦走でのノウハウ、パーティーシップ等しの執られたリーダーシップから多くを考えさせられた山行でもありました。これを糧に次回へつなげたいと考えました。



y.utsumi

1月に埼玉県久喜市で1ヶ月間の生活、28年ぶりの関東暮らし。今回はマイカーで名所・旧跡巡り。その中で、筑波山頂からの大パノラマが素晴らしい。日本100名山で標高876mの低山であるが眼下に長大な利根川の流れ、霞ヶ浦、東京の高層ビル群、スカイツリー、男体山、そして雄大な富士山が見える。関東平野は広大である。

—— “原発事故” だけでもなかったら——

砂川

3月11日を境にして、新聞も雑誌もニュースも全く違ってしまった。私達の心の中まで、何か異様なものが巣食っている感じた。

東日本大震災の1ヶ月後、自治会の総会があった。防災訓練や避難場所、高いマンションや公営住宅の高い所へ避難する交渉を求める声も出た。海や川が近い住宅街なので真剣だった。私は港の近くにコンクリートで囲って30年近くになるPCBについて意見を言った。逃げることはばかり話しあっているけれど、元を断つことも大事だ。PCBは30年前、ホルモンを攪乱、ダイオキシンの発生、水に溶けない自然界にない化学物質と恐れられ日本中で話題になった。地震や津波で壊れたら海、川はもちろん漁業や地下水もだめになる。行政や責任企業にも安全確認し、保管方法も検討して欲しいと言った。大勢の中で勇気もちょっといったが原発の日々の対応を見ていると将来が不安である。

5月の連休、稲村が岳に行った日は、いい天気なのに、すごい黄砂で、せっかくの山が悔しいくらい霞んでいた。中国で原発を開発するというが地震も多いこの国で、今回のような災害が起こったら、日本はすっぽり放射能をかぶる。色もついていない、匂いもないこの怪物に子供や孫たちの将来が恐ろしい。

不便や省エネ、少しの貧しさにも協力したい。原発からの撤退を決断し、自然エネルギーを開発する方向へ、この国が率先して舵を取ることを心から願っている。

山行報告



蓼科山

日 時：2月26日(土)～28日(月)
参加者：L 砂川(延) 尾越 本多 松下

冬の蓼科山を体験して

高御位山遊会に入って3年。いつもの山行なら準備もスムーズにできるようになりました。が、雪山はどう考えればいいのか分からない…。特に服装。スキーするときは結構暑いから歩くとなるともっと暑い??でもスキー場より標高が高く吹雪けば寒い。迷いつつもペンション泊なので余分に持って行って当日考えよう!と、もっている服の中からあれこれ考えて持って行き、結局当日の天気はあまり寒くなかったの下は冬用の撥水ズボンと上は何枚か重ね着し、レインウェアを着ました。そして、いよいよスキー場に到着。チケット売り場に並び、ゴンドラに乗って終着地点で準備。ピッケル、ワカン(スノーシュー)など慣れてないからモタモタと時間がかかり、何度も経験の必要があるなと痛感しました。準備を整え、リフトの脇から登山口へ続く道に踏み込む。想像より雪は固く、ワカンも沈み込まない。初めて履いたワカンにちょっと歩きにくさを感じつつ、20分ほどで登山口に到着。私たち以外の人はアイゼンで歩いているのを見かけ、登山口からはワカン(スノーシュー)をはずし、アイゼンもなしで登ることになりました。森林の中の雪道を歩くと気持ちいい!時々よろけて道の端を踏むとずぼっと足が入ってしまったり、体重を乗せようと力を入れたらずっと滑ってしまったり。雪道の歩きにくさを体験しました。一番前を歩いていたリーダーはキックステップで足場を作りながら進んで行き、1時間半ほどで將軍平に到着。少し休憩したところでそのまま出発。少し上がつ



本多

たところで、雪が柔らかく、登りにくくなり、アイゼンを着けました。おお!歩きやすい。重いけど…。アイゼンを買ってからまともに雪を踏んだのは初めてで感動しました。森林を抜けたら一転すごい風!頂上小屋手前の急斜面とあいまって、下りは怖そうだなあと不安になります。頂上で飛んでしまいそうな風の中、記念写真を撮って、そうそうに下



り始めました。登りのとき怖そうだなあと感じた斜面を降り、森林に入ったところでリーダーがおしりをついて滑り降りしました。ええ!?いいの?とか思いましたが、やってみたら楽しい!楽ちん!あっという間に將軍平まで戻ってきてしまっ、ちょっと残念。將軍平で遅い昼食を摂り、その後はずんずん下って、登りの半分ほどの時間でリフトまで降りてきました。今年は天候にもまあまあ恵まれて(曇りだった)頂上まで登れたのでホッと一安心。これが天候悪かったり、テント泊で荷物が重かったり、そもそも山自体が難しかったらどうだったんだろうと思い、もっといろいろ経験したいという願望も出てきた蓼科山でした。

沼島

日 時：3月20日（日）

参加者：AL 澤田(律) SL 西村 阿蘇 内海 大谷 貝塚 金島 河合 蔵田 荘所
長谷川(易) 森川

BL 砂川(延) SL 尾内 足立 貝塚(陽) 狩集 切貫 澤田(卓) 塩津 武田
長谷川(孝) 平山

行動記録：宝殿駅 8:00 = 淡路 SA8:38-8:50 = 土生 9:55-10:30(ストレッチ) → 沼島港 10:40-10:53 ~
おのころ神社 11:10 ~ 上立神岩 12:00-12:45(昼食) ~ 山ノ神 13:10 ~ 灯台 13:20 ~
下山口 13:46 ~ 大神寺 14:00 ~ 梶原五輪塔 14:10 ~ 伊藤庭園 14:15 ~ 沼島港
14:40 → 土生 14:50-15:07(ストレッチ) = さんゆ一館(温泉) 15:45-16:45 = 淡路ハイウェイオアシス
17:43-18:10 = 宝殿駅 18:55

沼島を歩いて

大阪湾に浮かぶ小さな島、故郷の思いと重ねて参加しました。雨の予報いつ降ってくるか退けられそうにない覚悟のもと、淡路島より見る沼島は思いより大きく見えた。ガイドさんの説明を受け、雨になったらとのことで景勝地のある、南側のコースをとることになった。寺を通り高台になるにつれ広々とした海が見えてくる。太平洋の風が強いのか、木は低く立ち枯れが多く白色化している。大台ヶ原を思い出した。



高御位山から見る海と違い沼島から見る海は格段に広い。島一番の景勝地、上立神岩、

足元から広がる大海原を前にして、昼弁当、

平山

荘所さんよりのケーキをいただきながら、ゆったりといやされた時間を過ごしました。3000名いた人々、今は500名を切ってい



るとか。広かろうが、小さかろうが、そこには、その歴史がある。それを誇りにし大切にされている、そう感じました。国生みの沼島、天地降臨の高千穂の峰と、神話、伝説には疎いのですが、実は私は島育ち。4月30日の同窓会の後、長崎県平戸島を何日かかけて、ゆっくり一周して帰る予定です。

クライミング例会（垂水労山との合同例会）

日 時：3月23日（水）

参加者：L 大瀬 荒尾 講師：垂水労山 袴田 河尻

初めての御着の岩場

垂水労山の袴田、河尻両講師の案内で、初めて御着の岩場を尋ねてみました。位置的には山神社と同じ桶居山の麓、山神社の西に位置する岩場で最寄駅も JR 姫路別所駅である。佐土新のバス停を過ぎ、ため池を左（木工団地の方向）に曲がってゴミステーション横の階段を登り山道に入る。ルートはよく踏まれており迷う事無く 5~6 分も歩くと御着岩西面・南面に着く。岩場は削岩機の跡が残り石切り場のなごりを今なお残している。

岩場前は木立の合間に広いスペースがあり立派な手作りのテーブルと椅子がしつらえてあり木陰も - - - 良く見ると桜の木も数本植えられ、シーズンには花見も可能だ。足場の不安定な山神社に比べ確保場所も広く安定、休憩・食事場所も快適。石は硬そうな感じ、但しスラブ状の岩で登るのには手こずりそう。

1 ~ 2 ピンまでは傾斜が緩く 3 ピン目から急に立ち上がっているルートは 20 ~ 50 m と長いが 2 ピンまで傾斜が緩いので 60 m ロープを使用すればトップ・ロープも可能。

岩壁は、御着岩西面・南面に 24 ルート、東面 23 ルート、奥壁 22 ルートと岩場も広く、

荒尾

大きい。ルート数も多く多人数でも問題ない。レベルも 5 ~ 11 b 級まであり初心者からベテランまで楽しむ事ができる。今回は、西面・南面のレベル 8 ~ 10 c の 4 ルートを攀じりましたが、所々に錆びたハーケン、ボルトが残り古くから一部の人たちの間で攀られていた様子が伺われるが、訪れるクライマーが少ないせいか、今だルートは安定せず浮石、窪み・緩傾斜には小石が乗って時々小石の落石の恐れも - - - 。 ルート開拓者は山神社と同じ人だが岩質のせいか個人的には少し難しく感じた。8、9 級と云えども核心部はてこずる。

ルート名もよいこ、わるいこ、へんなこ、ふつうのこ、レーガン落し、ブッシュ起し、寄合い酒、母さんの歌は 9 歳児の初登頂ルート、等々ユニークな名前が付けられている。広い岩場をトポで眺めて見ると、岩稜帯登り体験や初めて岩登にチャレンジするのに良さそうなルート等が数多く有り色々楽しみ、挑戦できそうだ。(EX 西面 24 「西面突破口」 50 m コースなど)

これを機会にしばらく通って色々なルートに挑戦したい岩場である。

寒峰・天狗塚

日 時：3月27日(日) ~ 3月28日(月)

参加者：L 松下 SL 西村 大谷 蔵田 砂川(延)

行動記録：3月27日

高砂 6:00—瀬戸中央自動車道（与島で休憩）—徳島自動車道—京上住吉神社駐車場
10:30（準備ストレッチ）—11:00 ~ 福寿草第 1 群生地 11:30（アイゼン着）—11:45
~ 三角地点（1425m）12:20（昼食）—12:35 ~ 寒峰頂上 13:25—13:40 ~ 第 1 群生地
14:40—14:45 ~ 住吉神社駐車場 15:00

3月28日

宿 7:55 ~ 西山林道登山口駐車場 8:35—（準備ストレッチ）8:50 ~（アイゼン着）
分岐点標識 9:50 ~ 天狗塚峠 10:50 ~ 天狗塚頂上 11:25 - 11:50 ~ 天狗峠 12:15 ~
分岐点標識 12:45 ~ 下山駐車場 13:20 下山後 CHIIORI かやぶき住宅
かずら橋 祖谷資料館等観光、淡路 明石大橋ルートで帰る。

残雪の山歩

寒峰は、「フクジュソウの咲く3月がベストであるが、冬の雪景色も楽しめる、冬山入門の山として手頃な山である。」とガイドブックにありました。今年はいつまでも寒かったので、フクジュソウも雪景色も、共に楽しむことが出来ました。天狗塚では、展望が素晴らしく、十分楽しむことが出来ると紹介されていたとおりの景色を観ることが出来ました。二つとも同じ四国にある山座ですが、其々、北と南に位置しており、山の雪質は違っていました。これは、地形によるものだと思いますが、北陸地方での積雪期には経験したことがなかったので不思議な感じがしました。

寒峰では、早急に準備を整え登り始めると、いきなり急登に出くわし、一步一步踏みしめるように進んで行きました。残雪が斑に広がる自然林、急登の途中に現れた小さな平原が、黄金に輝き、眩しいばかりのフクジュソウ、



陽光を集める花卉は、それ自身が輝いているようで、眼前に広がる景色の美しさは、表現する適切な言葉が見つからないほど

でした。アイゼンを装着し歩き出すと、再び、急登が始まり、喘ぎ喘ぎ樹林帯を抜けると尾根へたどり着きました。新雪で、出来たであろう足跡が時間の経過と共に形の綺麗な円柱形をなしていました。緩やかなうねりを繰り返し、開けた鞍部に出ると、南の展望が開け、三嶺～剣山の谷間は、雪を残し美しい斑模様を覗かせていました。偽ピークに騙され、やっとの思いで山頂にたどり着くことが出来ました。

天狗塚では、林道の両サイドでミツキが迎えに来てくれました。ミツキという名は、枝が三つに分かれているところから由来していると教えて頂き、なるほどと思いました。

西村



鉄階段から尾根に取り付き、すぐ前に天狗塚登山口とイザリ峠を示す標識が立っていましたが、気づきにくく、注意していなければ、見過ごしてしまう感じがしました。雑木林を抜けると桧・杉の植林帯となり、そこからは日陰が多く、雪が残っており安全を考え、アイゼンを装着することとなりました。急登では、キックステップが上手く使えず足の疲労が増すばかりで、今後は、足への疲労や負荷を考えれば、習得しておかなければならないと感じました。足を進めて行けばクマザサの中に茶色に茂ったコメツツジの群生が現れ、道もなだらかになり天狗峠にたどり着きました。これまで見えなかった山頂が稜線の向こうに三角錐の優美な塚が誇らしげに鎮座しており、コメツツジの花の咲く7月は、クマザサの緑とのコントラストが、どんなに素晴らしいかと想像していました。また、7月は日差しを遮る立木がないので、今回のように疲労困憊かなと思いながら山頂に着きました。奥に広大な尾根、牛の背が見える。くぼみに残雪が残り、それが、模様となり大自然の中に牛が寝そべっているかのように見えました。

下山後は昨日民宿で出された大豆の風味豊かな硬めの美味しいお豆腐をお土産にすることも出来ました。

大変、有意義な時を過ごすと共に、満ち足りた山行が出来ました。ありがとうございました。

白旗山

日 時：3月29日（火）日帰り

参加者：AL 山本 ASL 待場 荒尾 井上 大谷 澤田(卓) 多木 中嶋

BL 上田 BSL 澤田(律) 足立(美) 北村 武田 開 舩賀 増田 渡邊(健)

行動記録：宝殿駅 8:30—福田インター8:50—上郡細尾 9:35～細尾登山口 9:50—10:25～

峠 11:00—11:10～頂上（本丸 昼食）11:25—12:00～林道終点 12:37～野添登山口

13:00—13:10—平福 13:57～15:00—ピュアランド山の里(入浴)15:50—17:10—

別所 PA18:10—宝殿駅

白旗山城山行

3月29日、4台の車に分乗して、上郡町細野を目指しました。細野で下車し、リーダーとドライバーは下山地点「野桑」に車を回し、一台の車で戻る（下山後、「野桑」から3台の車に分乗して「細野」の駐車場まで戻る）という妙案でした。山に入るといきなりヒノキの林に包まれました。私達は一足先に林道終点まで登りました。林道と言っても、車が通れるかどうか位の道です。舩賀さんのご指導で体操し、皆が揃ったところで出発です。

白旗城跡に向かう分岐点までは、急な登りですが、クヌギやホウの落ち葉を踏みしめて進みました。途中からヒノキの落ち葉に変わっていきます。頃合いに白旗城跡への分岐点での休憩です。そこからは白旗城跡へピストンです。

白旗城は南北朝時代（1336年）赤松円心が築城した山城で1441年滅びるまで播磨・備前・美作3ヶ国の守護大名赤松氏の本城だったそうです。登って行くにつれ、堀切跡・石積・二の丸跡・本丸跡が姿を現します。「この山上にどのように資材を運んで築城したのか？とか、山上の侍屋敷でずっと侍が暮らしていたのか？」とか思いがめぐります。そして、その後楽しいお弁当タイムでした。何だか遠足気分でした。

下山道も急坂で、滑りやすいところが少しありましたが、距離は短く、私にはピッタリの山行でした。

足立



「野桑」からは、再び車に分乗して千種川を北上し、佐用の宮本武蔵のゆかりの地「平福」へ行きました。千本格子や蔵造りの家並みが軒を連ね、佐用川沿いに土蔵が点在します。各戸の裏には川沿いの道に出る石段が作られており、道からは川に降りる階段が家ごとに設けられています。川で洗濯していると大きな桃が、ドンブラコ～ドンブラコ～と流れてきそうな風景でした。13歳の武蔵が、新当流の達人有馬善兵衛と金蔵橋のたもとで決闘したという所もありました。

平福散策の後、再び上郡へ戻り「上郡ピュアランド山の里」へ向かいました。ここは高台にある大きなホテルでした。6階で、圧巻の山の景色を眺めつつの入浴でした。

今回の山行は自動車での移動が長く、ドライバーの方々を始め道案内のリーダーの方々が気を遣われたことと思います。皆様本当に有難うございました。山登りあり歴史散策ありの盛りだくさんの1日でした。

京見山

日 時：4月3日（日）日帰り

参加者：L 澤田 SL 待場 井上 大谷 金島 狩集 切貫 澤田(卓) 中嶋 長谷川(易) 開

行動記録：JR 網干駅 9:10～勝原小学校前 9:27～春日神社 9:33—9:42～京見山 10:40—10:50
～泣き坂峠 11:05～見晴らし台 11:20—11:30～白毛山 11:40—12:15～トンガリ山
12:30—12:40～才天満八幡神社 12:55—13:05～才の地蔵 13:10～JR 英賀保駅 13:30

♪ 春は名みの... ♪

井上

♪ 春は名みの 風の寒さや 谷の鶯 歌は思えど
時にあらずと 声も立てず 時にあらずと 声も立てず ♪



この時期にピッタリの「早春賦」、朝は震えあがる寒さでした。登り口の春日神社まで25分のウォーキング、準備体操をすると身体がぽかぽか。境内の桜のつぼみもふくらみ、春の足音が聞こえてきそう。とても歩きやすいアップダウンの道が続き、低い常緑樹の木々の小道は楽しい散歩道。横穴式古墳跡が何か所ありました。30分程で、視界がパッと開け感激！海に浮かぶ家島・男鹿島... 遠くには淡路島・明石海峡（お天気によっては明石大橋も見える）

夢前川・飾磨港・姫路城・姫路西部の町々... が箱庭の様に、そしてミニチュアの新幹線や貨物列車に、童心にかえり歓声をあげてしまいました。京見山山頂から泣き坂峠を経て白毛山へ。高い鉄塔が建っている山頂で昼食。トンガリ山を経て、13時頃には下山口の才天満宮に降りてきました。英賀保駅に向かう途中、高さ3mの石造「才の地蔵」がありました。とてもふくよかなかわい顔をしたお地蔵様に手をあわせました。”苦境の中、力を合わせて元気を取り戻せますように...”と。

200m程登れば、素晴らしい景色に出会え、自然がいっぱいある山歩きの魅力を再確認しました。♪ケキョケキョケキョ...♪と遠慮気味に喉鳴らしをしていた鶯、コバノミツバツツジの花も咲き、小さな春を見つけたのんびりとした一日でした。

リ・ダ・さん、お世話になりました。一緒に過ごした皆さん、有難うございました。

大倉山

日 時：4月5日（火）日帰り

参加者：AL 渡邊 ASL 山本 井上 切貫 澤田(卓) 砂川 竹内 藤田
BL 砂川(延) BSL 尾内 足立 佐々木 多木 武田 増田 渡邊

行動記録：JR 宝殿駅 8:30—井関三神社 9:30—9:35～西の峠池公園 10:45—11:00～
大倉山山頂 11:20～展望台 11:40—11:45～西の峠池公園 12:20—12:55～大成池
13:15～新池 13:35—13:40～奥宮神社 14:05～大鳥居 14:40～井関三神社駐車場
15:05—15:20～あかねの湯 15:40—16:40 解散

春の大倉山周回

一週間前の白旗山に引き続いての平日山行でたつの市最高峰の大倉山（標高520m）を一周した。いつものように宝殿駅北口でピックアップしてもらったのだが、待っている間に通勤の人々が急ぎ足で階段を登っていくのを見ていると若干後ろめたさを覚える。

姫路バイパスで少し渋滞したが、途中前日に出火した京見山から依然として煙が立ち上っているのを横目にして、9時過ぎには井関三神社に着く。ストレッチの後に民家を縫って歩くが農具を置いた田舎家も残っており昔を懐かしむ。

案内標識が整備されておらず正規のコースを外れて道無き道を歩くこともあり落ち葉で滑るのに注意しながら西の峠池に着き小休止をした。バーベキューの設備も整っており、サクラや大きなツバキの木もあり、10日後には相当な賑わいになるはずである。今日は我々だけで独占である。カリヨンの音も聞こえのんびりした気分になる。

大倉山の山頂には三角点があるだけで残念ながら眺望はゼロであった。少し下がったところにある展望台からは揖保川、家島諸島、小豆島を望むことができた。昼食は連絡の行き違いでA班は大成池で、B班は西の峠池で

渡邊

と別れて取ることになってしまった。その後、大成池、新池を経て井関三神社奥宮に参ってから溪流沿いに山を降りた。この溪流の岩々には趣があって、個人的には隠れた名勝と感じた。サンシュウ、コブシの木もそこそこに見られ彩りを添えていた。木々には新芽も芽吹いており初夏もあつという間に来そうである。

帰途につく前にあかねの湯で汗を流した。一週間前の上郡ピュアランド山の里の6階にある展望風呂を独占したのを想像していたが、平日の午後4時なのにそれなりに混んでいた。

珍しく雲一つない青空の下で、桜まであと少しの暖かな春到来の一日を満喫し平日山行のメリットを再度実感することができた。



クライミング例会

日 時：4月3日(日)

参加者：L大瀬 高橋 松下 講師：垂水芳山 袴田 智

御着の岩例会

ルート 御着岩 西面10番 南面17番、18番

今回、初めて御着岩での岩例会に参加させていただきました。

当日は、桜がきれいに咲いていて、目を楽し

高橋

ませてくれました。練習した、御着岩西面、南面は、山神社の岩場に比べ、1つ1つのルートが長い。そのため、ロープの端を必ずエイト結びにすることや、岩場の途中でピレイをすることなど、勉強になりました。

大瀬さんがリードで登り、支点の構築などをして下さいました。トップロープで登ると違い、落ちたときの負担が大きいので緊張することでしょう。無事に登り終えられ、さすがだなあと感心しました。その後を、トップロープで登らせていただきました。久しぶりだったこともあり、いつも以上にたまたたとしてしまいましたが、登り応えがあり楽しめました。

講師に来ていただいた方が、今後、安全に練習できるように、終了点の設備を付け替えてくださいました。大切な作業であり、ありがたいことです。

練習の後、東面の岩場の方に見学に行きました。練習によさそうな場所がこんなにある

なんてビックリでした。

登る技術も、ロープワークも1つ1つ積み重ねていくしかないと実感し、練習不足を反省しました。反省するだけで進歩がありませんが、今後なるべく、練習に参加させていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。



六甲山系 **ロックガーデン～最高峰、有馬**

日 時：4月9日（土）

参加者：L 砂川（延） 大谷 岡本 尾越 高橋 巻藁 和田

行動記録：阪急芦屋川 9：00～堰堤 9：30～（計量）10：00 - 10：45（休憩）10：50～

雨が峠 11：45 - 11：55～一軒茶屋 12：55（昼食）13：20～有馬 14：30

初めての歩荷トレーニング **ロックガーデン～一軒茶屋～有馬へ 岡本**

重い荷物を持って歩くのは初めてです。ノルマの 15kg を背負い歩きはじめると予想通り、ザックに体が左右にひっぱられる感じがして怖さを感じました。ゆっくりふみしめて歩くのがこつだと教えていただき、意識をして歩きました。最初は慣れませんでしたでしたが、歩き続けていると、だんだんその重さにも慣れてくる感じがしました。よしよしと思っていたら、途中、30kg の大荷物がかついだ大集団が足早にぬきさっていきました。人間か・・・？ 歩荷も山歩きの中で、大事な技術の一つなんだなと思いました。

一軒茶屋で大谷さんにザックの紐を調整していただいた。荷物を体に密着させて持つと軽く感じるし、ひきづられることも少なくなるらしい。軽い！！ぶれない！！ありがとうございます。すると会長が教室でやったで

しょと喝。うーん。頭に残っていない。やっぱり私は体に覚えこませるタイプのようなのです。

ロックガーデンから一軒茶屋への道は初めての山歩き教室で歩いたお気に入りのコースです。前回とは季節が違うせいか花もあったり山の色や風も違った感じを受けました。くもりではありましたが今回もすがすがしい気分です。参加人数も7名と少なくこじんまりとして皆さんとお話ができ、今までの山行とは又違った雰囲気を楽しませていただきました。少人数の山行もいいものですね。

歩荷ができるようになれば夏山への山行も無事行けるはずだと、まだ一度も登ったことのないアルプスの山を夢みております。いつか行けるといいな～。